

## ストラテジーブレティン (89号)

## 安倍さん、これじゃ駄目だ

昨日の政府日銀の共同声明は、中身の無いものであった。「2%のインフレ目標と2014年からの無期限の資産購入」、つまり今年中何も変わらない。1%の物価のめどすら達成がおぼつかない中での期限を決めない2%のインフレ目標は「無」に等しい。

そうした形だけの声明を「画期的」(安倍首相)「歴史的」(甘利経済財政・再生相)と評価している、安倍政権にも呆れる。やはりと言おうか、日銀法改正を回避するための官僚の作文によって、結果を作るコミットメントが棚上げされた。市場は失望して円高株安にもどったが、失望はそれにとどまらない。安倍政権がかくもたやすくだまされ、お茶を濁すとは!! これまでの掛け声倒れを繰り返す可能性が高いことを、強く感じさせてしまったのである。安倍政権に対する信頼が陰り始めていくことを、真剣に憂慮するべきだ。

かくなるうえは、次期日銀総裁と日銀法改正に焦点が絞られなければならない。日本と米国の違いは、中央銀行首脳の覚悟の違いにある。バーナンキFRB議長は、「デフレは害悪でありそれは金融政策で回避できる。打つ手はいくらでもある」と主張し、市場の想定を超える政策を打ち出し、市場の期待をリードし、人々のアニマルスピリットを鼓舞し続けている。バーナンキ議長の信念が市場と経済を動かしているのである。

対して日銀白川総裁はデフレが害悪だとも思わず、それが回避できるとの信念も持っていない。中央銀行総裁が持っていないデフレ脱却という期待を、どうして市場が抱けようか。つまり、安倍首相が断固としてデフレ脱却を推進するのであれば、中央銀行の総裁には、最低でも金融政策によってデフレを終焉させることができること、そのためにはどのようなこともでき、どのようなことでもすると言う覚悟のある人物が必要だ。今や焦点は安倍首相の覚悟にかかっている。

著作権表示©2013 株式会社武者リサーチ

本書で言及されている意見、推定、見直しは、本書の日付時点における武者リサーチの判断に基づいたものです。本書中の情報は、武者リサーチにおいて信頼できると考える情報源に基づいて作成していますが、武者リサーチは本書中の情報・意見等の公正性、正確性、妥当性、完全性等を明示的にも、黙示的にも一切保証するものではありません。かかる情報・意見等に依拠したことにより生じる一切の損害について、武者リサーチは一切責任を負いません。本書中の分析・意見等は、その前提が変更された場合には、変更が必要となる性質を含んでいます。本書中の分析・意見等は、金融商品、クレジット、通貨レート、金利レート、その他市場・経済の動向について、表明・保証するものではありません。また、過去の業績が必ずしも将来の結果を示唆するものではありません。本書中の情報・意見等が、今後修正・変更されたとしても、武者リサーチは当該情報・意見等を改定する義務や、これを通知する義務を負うものではありません。貴社が本書中に記載された投資、財務、法律、税務、会計上の問題・リスク等を検討するに当たっては、貴社において取引の内容を確実に理解するための措置を講じ、別途貴社自身の専門家・アドバイザー等にご相談されることを強くお勧めいたします。本書は、武者リサーチからの金融商品・証券等の引受又は購入の申込又は勧誘を構成するものではなく、公式又は非公式な取引条件の確認を行うものではありません。本書および本書中の情報は秘密であり、武者リサーチの文書による事前の同意がない限り、その全部又は一部をコピーすることや、配布することはできません。